

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : **09-140406**
 (43)Date of publication of application : **03.06.1997**

(51)Int.CI. **A43B 13/14**
A43B 23/24

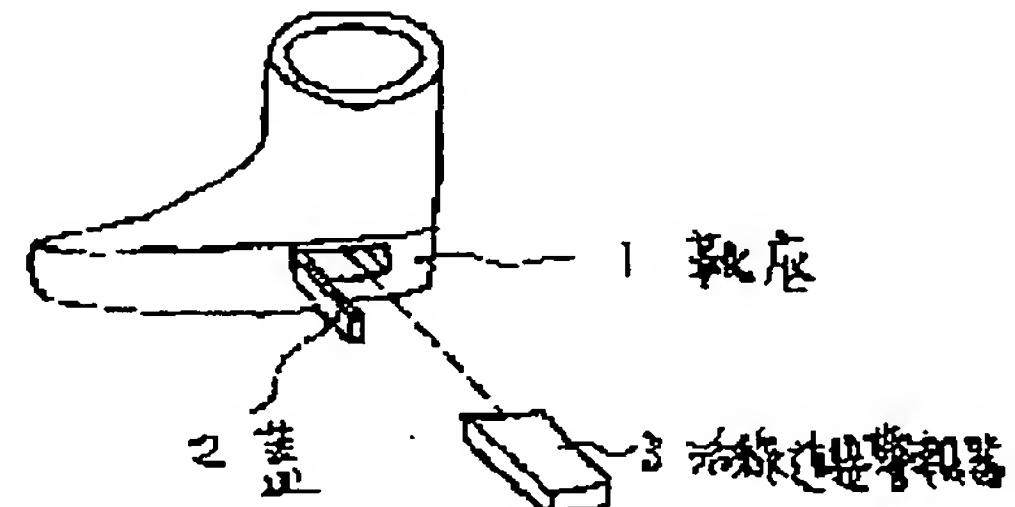
(21)Application number : **07-335610** (71)Applicant : **WADA TOYOHIKO**
 (22)Date of filing : **17.11.1995** (72)Inventor : **WADA TOYOHIKO**

(54) SHOE WITH HOT LINE APPROACH ALARMING DEVICE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To prevent a human body from an electric shock by sounding a hot line approach alarm when the toe of the human body approaches the hot line of electricity.

SOLUTION: A cover 2 is provided on a sole 1 and a hot line approach alarming device 3 is provided inside the sole 1.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's

decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-140406

(43)公開日 平成9年(1997)6月3日

(51)Int.Cl.⁶

A 43 B 13/14
23/24

識別記号

府内整理番号

102

F I

A 43 B 13/14
23/24

技術表示箇所

102

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全2頁)

(21)出願番号

特願平7-335610

(22)出願日

平成7年(1995)11月17日

(71)出願人 593224946

和田 豊彦

岡山県英田郡美作町位田815

(72)発明者 和田 豊彦

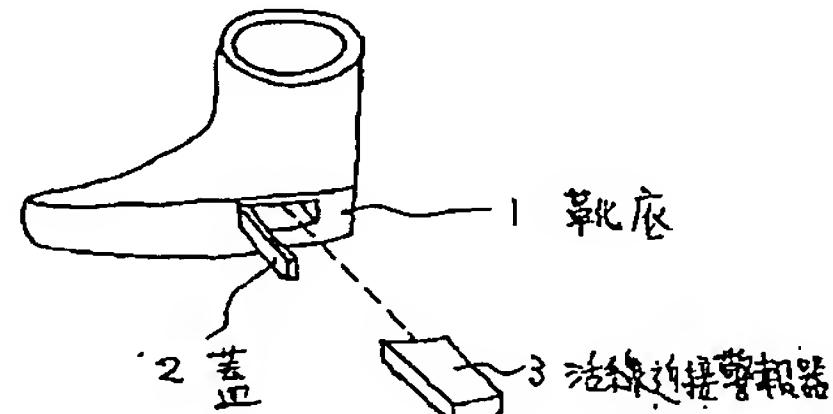
岡山県英田郡美作町位田815

(54)【発明の名称】 活線近接警報器付靴

(57)【要約】

【目的】 人体の指先が電気の活線に近接すると、活線近接警報が鳴り人体を感電から防止できる、活線近接警報器付靴を提供する。

【構成】 (イ) 靴底(1)に蓋(2)を設け、靴底(1)の内部に活線近接警報器(3)を設ける。
以上の構成により成る、活線近接警報器付靴。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 靴底(1)に蓋(2)を設け、靴底(1)の内部に活線近接警報器(3)を設けてなる活線近接警報器付靴。

【発明の詳細な説明】

【0001】 [産業上の利用分野] この発明は、電気の活線部分に、人体が近接した場合、靴に付けた警報器が鳴り、人体を感電から防止する活線近接警報器付靴に関するものである。

【0002】 [従来の技術] 従来、ベルトの付いた活線近接警報器があり、ベルトを上腕部に巻いて使用するものであった。

【0003】 [発明が解決しようとする課題] これは次のような欠点があった。

(イ) 電気の活線部分に、人体の指が近接しても警報器が鳴らない場合があり、その理由は、活線近接警報器本体が電気の活線部分に近接しなくては鳴らないものだからであるから、指の方が先に活線部分に近接してしまう場合があった。

【0004】 [課題を解決するための手段] 靴底(1)に蓋(2)を設け、靴底(1)の内部に活線近接警報器(3)を設ける。

以上の構成により成る活線近接警報器付靴。

【0005】 [作用] 靴底(1)に蓋(2)を設け、靴底(1)の内部に活線近接警報器(3)を設けた活線近接警報器付靴を履いた人体の指先が活線に近接すると、

活線近接警報器が鳴り人体を感電から防止できる。但し、活線近接警報器付靴が地面に接触していなくてはならない。また、片手がアースに触る等人体が地面と同電位にある場合には効果が無い。

【0006】 [実施例] 以下、本発明の実施例について説明する。

(イ) 靴底(1)に蓋(2)を設け、靴底(1)の内部に活線近接警報器(3)を設ける。

本発明は以上のような構造で、これを使用するときは、人体の指先が活線に近接すると、活線近接警報器が鳴り人体を感電から防止できる。但し、活線近接警報器付靴が地面に接触していなくてはならない。また、片手がアースに触る等人体が地面と同電位にある場合には効果が無い。靴を洗濯する場合には、蓋(2)を開放し、活線近接警報器(3)を靴底(1)から取り出して行なう。

【0007】 [発明の効果] 人体の指先が活線に近接すると、活線近接警報器が鳴り人体を感電から防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の分解斜視図である。

【図2】 本発明の断面図である。

【図3】 本発明の実施例を示す斜視図である。

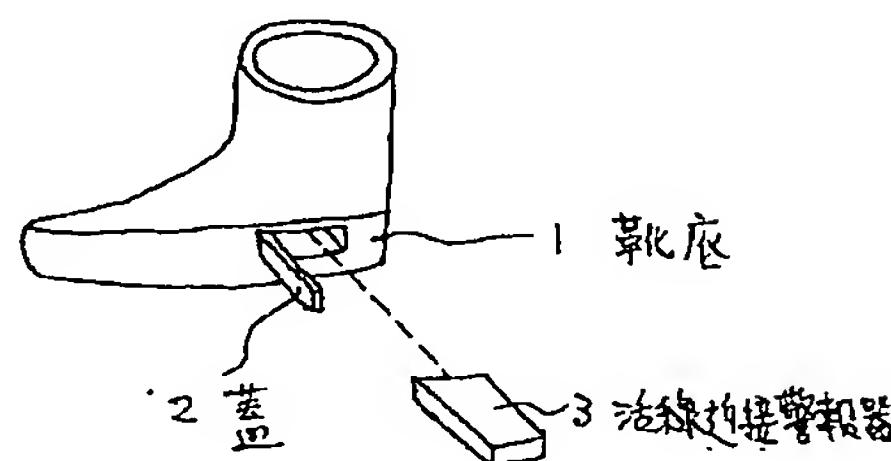
【符号の説明】

1 靴底

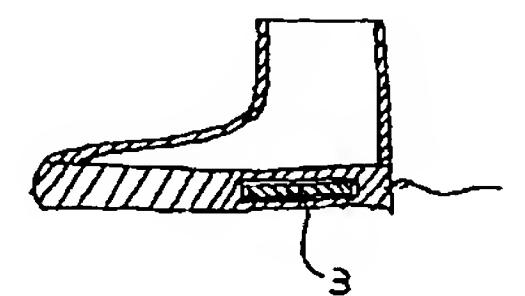
2 蓋

3 活線近接警報器

【図1】



【図2】



【図3】

